

柳生の里説明

◆旧柳生藩陣屋敷跡

寛永 14 年（1642 年）年に柳生宗矩が 3 年をかけて建てた柳生藩の陣屋跡です。「柳生藩日記」によると、その坪数は 1374 坪（454 m²）表は竹の枝門であったと記されています。その後、宗冬に増築整備されましたが、延享 4 年（1747 年）の火災により全焼し、仮建築のまま明治の廃藩により姿を消しました。昭和 55 年 6 月に史跡公園として整備されました。

◆神護山芳徳禅寺（ほうとくじ）

柳生の里を一望の元に景観できる山上にある柳生家の菩提寺です。江戸初期（1638 年）に柳生宗矩が父の菩提を弔うために、親交のあった沢庵和尚を開山として建立されました。本堂には本尊の阿弥陀如来を中心に、左右に柳生宗矩像や沢庵和尚像が安置されています。また、隣接する史料室には柳生藩の資料が展示されています。

◆柳生家の墓

柳生家の墓地は元々は月吹山中宮寺（現・奈良市柳生下町）にありましたが、芳徳寺の創建に伴って改葬され、芳徳寺裏の墓地に柳生藩主・柳生氏一族代々の墓石が 80 基余りが並んでいます。

◆柳生正木坂剣禅道場

芳徳寺のすぐ下には柳生十兵衛が延べ約一万人ともいわれる弟子を鍛えたと伝えられる正木坂道場の名を受け継ぐ剣道場があります。柳生新陰流の精神「剣禅一如」に通じる剣道と座禅の道場で、昭和 40 年、当時の住職・橋本定芳氏の尽力で建立されました。もとは興福寺別当一条院にあった奈良地方裁判所の建物を移築し、正面入口は京都所司代の玄関口を移設した道場です。

◆天乃石立神社

柳生町の戸岩谷にある神社で本殿を持たず四つの巨石が御神体として崇められています。伝承では、手力雄命（たちからおのみこと）が、天岩戸の扉を引き開けた時に、力余って、ここまで飛んで来た岩戸の扉であるという伝説があります。柳生家の修練の場とも呼ばれ、歴代柳生家の崇敬があつかったといわれています。

◆一刀石

戸岩谷にある約 7 m 四方ほどの巨石で中央から 2 つに割れています。柳生石舟斎宗巖が修行中にこの戸岩谷にわけ入ったところ天狗がいたので、その天狗を宗巖が一刀のもとに切り捨てたところ、巨石を 2 つに割っていたもので、これを後世「一刀石」と呼ぶようになったと伝えられています。

◆旧柳生藩家老屋敷

道の西側に見える豪華な石垣は、もと柳生藩財政の立て直しをした家老小山田氏の屋敷で石垣に天保12年（1841年）尾張石工が築いたと記されています。昭和31年に人の手に渡りましたが、昭和39年作家山岡壮八氏の所有となり、昭和46年放映のNHK大河ドラマ「春の坂道」もここで構想が練られました。昭和55年山岡壮八氏の遺志により遺族山岡賢二氏夫妻から奈良市へ寄贈されました。奈良市は、昭和56年これを修復し主屋の一部に資料を展示、一般に公開しました。現在ここに柳生観光協会があります。

柳生観光協会による